京都大学ｉＰＳ細胞研究所は、ｉＰＳ細胞の医療応用を目的に2010年に設立されました。ｉＰＳ細胞の作製により、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授が所長を務めています。ｉＰＳ細胞は、ほぼ無限に増殖でき、様々な細胞に変化できるという２つの特徴をもっていることから、ｉＰＳ細胞から作った細胞を移植し、病気やケガで失われてしまった機能を回復させる再生医療への応用、薬の開発や病気の原因を解明する研究が進められています。iPS細胞技術を活用することで、治せない難病やケガを克服できる可能性がありますが、その医療応用は困難を極めます。ｉＰＳ細胞研究所では、患者さんたちに一日でも早くｉＰＳ細胞技術を届けられるよう、日々研究を行っておりますが、400名以上の研究者・研究者支援者の9割が非正規雇用という大きな課題を抱えています。これらの課題を克服し、医療応用に向けた研究を進めるためにｉＰＳ細胞研究基金を設置し、広くご寄付を呼びかけております。ｉＰＳ細胞研究基金のために、大阪マラソンを走ってくださる、チャリティーランナーの皆様にご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。